

授業科目名	創造性開発演習	担当教員	山中 俊之 中村 嘉雄
必修の区分	選択		
単位数	2		
授業の方法	演習		
開講年次	3年第1クォーター		
講義内容	フィールドワークなどを通じて、観光、地域振興につながる創造性を開発することを目標とする。創造性の開発には、現場を観察すること、自然や芸術での体感が重要であるとの方針のもと、多くのフィールドワークを行う。多くの授業の前半の2時間はフィールドに出るか、様々な街の散策、会社訪問、美術館訪問等を行い、地元の資源に着目した創造性開発を行う。現代アートに関する考え方や手法を大いに取り入れる。最後は、自らの創造性開発に関する考えを整理する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性開発に関して自分なりの方法論を持ち日常的に実践できる。</li> <li>・芸術や自然科学、心理学など異なる分野、自分が知らない分野についても関心を向けることができる。</li> <li>・観察や対話を通じて顧客や関係者の真のニーズを洞察できる。</li> <li>・フィールドワークの方法を習得して、地域の課題やその解決方法を見つけることができる。</li> <li>・自然や芸術に触れることで自らの創造性を高める手法を日常的に実践できる。</li> <li>・現代アートの意義について自分なりの考えで話すことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1－2回：創造性開発はなぜ重要かー極論を考えるワーク</p> <p>第3－4回：効果的な観察から顧客の真のニーズを洞察するにはー小田井（かばん）神社</p> <p>第5－6回：創造性開発の基本的枠組みー小田井神社振り返り、観察、対話、洞察、多様な分野のインプットとアウトプット</p> <p>第7－8回：フィールドワーク（自然を歩いて観察する）</p> <p>第9－10回：フィールドワーク（中心市街地を歩いて観察・対話する）</p> <p>第11－12回：フィールドワークの振り返りから創造力を高める</p> <p>第13－14回：フィールドワーク（地学、生物学、心理学を創造性に繋げる）</p> <p>第15－16回：フィールドワーク（芸術に触れることから創造性を高める重要性ーあさご芸術の森）</p> <p>第17－18回：現代アート、絵画、音楽、文学を使って創造性を高める</p> <p>第19－20回：フィールドワーク（かばん企業）</p> <p>第20－21回：観光・地域振興、社会的問題解決ための方法を考えるーグループ討論</p> <p>第22－24回：創造性開発のための方法論を各自でまとめたレポート提出</p> <p>※但馬の関係者の皆さんに打診をしており、その結果によって変動がありえます。</p>		

事前・事後 学習	・毎回 1 週間で気付いた面白いこと、美しいもの、便利なものを、講義で共有します。
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて配布。
成績評価 の 基 準	個人レポート (30%)、グループ発表 (30%)、その他授業中の積極性 (40%)
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	なし